



令和3年度

# 学校だより

3月号

～ひとがすき まちがすき いわさきの子～

横浜市立岩崎小学校

電話 331-5123

FAX 331-5343

## 当たり前のことが当たり前ができる学校

校長 小林 雅弘

早いもので今年度も残り一か月となりました。6年生は卒業まであと14日、1～5年生も18日で今年度を終えます。今の学級の仲間たちと過ごす時間を大切にして、よいかたちで締めくくってほしいと思います。

校長室から毎日見える光景の中で、私が気に入っている子どもたちの姿が二つあります。一つは休み時間に校庭で元気よく遊ぶ子どもたちの様子です。新型コロナウイルス予防の観点から、この二年間、ボールを使う遊びを自粛しています。小学生のボール遊びの定番である「ドッジボール」も私が着任してから見ていません。それでも多くの子が外に出て、夢中になって鬼ごっこなどを楽しんでいます。本校はできるだけチャイムを鳴らさない方針なのですが、どんなに夢中になって遊んでいても、10時35分になると何となく遊びが終わり、一人また一人と昇降口に戻っていきます。そして2分後には校庭にだれもいないのです。各自が時計を見て、主体的に行動するこの光景が私はとても好きで、「岩崎の子どもたちは偉いなあ。」と感心します。



10時35分の校庭



10時37分の校庭

もう一つは、給食の準備の時間です。12時20分くらいになると、校長室前の給食室に、各クラスの給食当番たちが食缶を取りにやってきます。4・5組、1、5、6年は廊下の東側から、2、3、4年は廊下の西側からクラスごとに並んで歩いてくるので、入口で重なることが多くあります。すると先に到着していた5年生や6年生が、後から来た下級生に「お先にどうぞ」と手のひらを出して譲るのです。2、3、4年生が後から来た1年生に譲る光景もあります。上級生が下級生を思いやる気持ちが自然と身に付いていて、そんな様子を見るたびに「岩崎の子どもたちは優しいなあ。」と心が温かくなります。



6年生が「お先にどうぞ」

「時間を守る」「年上が年下を気遣う」そんなことは当たり前のことなのかも知れません。でも「当たり前のことを当たり前にする」ということは意外と難しく、それができる学校はよい学校であると思います。「気持ちのよい挨拶ができる」「自分がされて嫌なことは相手にはしない」「逆に自分が言われたらうれしい言葉は相手にもたくさん伝える」「苦手なことにも粘り強く一生懸命取り組む」学校生活には、他にもたくさんの「当たり前」があります。岩崎小がこれからも「当たり前のことを当たり前ができる学校」として成長していけるよう、子どもたちと教職員で共によりよい学校を創っていきたいと思っています。